

層雲峡ビジターセンター



〔 大函～柱状節理のリフレクション(鏡面反射)・1月 〕

冬の大函

層雲峡の有名な景勝地の一つ、大函。大函に行き、展望台から峡谷を眺めたことはあっても、峡谷の中に入ったことのある人は少ないのではないのでしょうか。夏は石狩川が流れているため、展望台から先へは進めませんが、冬はダムの水が止められているため川の水量が少なく、峡谷の中を歩くことができます。間近で見られる迫力満点の柱状節理の他にも、氷瀑、冠雪、霜結晶、カワガラスなど見どころ満載！ぜひ、冬限定の大函の魅力を味わいに来てください。※1/18～2/16までの土日に冬季観察会開催中！詳しくはHPをご覧ください。

〔カワガラス〕 スズメ目カワガラス科、留鳥、体長：21～23 cm、生息地：河川の中・上流域、山地の溪流



体は褐色～黒褐色で、全身が黒っぽいことが名前の由来。カラスの仲間ではありません！



カワガラスはスズメ目の中で唯一、潜水ができる鳥。水中に潜って移動したり、餌をとったりします。



脚は銀色で川底でも歩けるよう、かなりがっしりしています。尾を立てた姿は大きなミソサザイのよう。

もっと知りたい！層雲峡

～当センターのスタッフが、皆さんに知ってほしいことや
あまり知られていない層雲峡のあれこれをご紹介します～

層雲峡・氷瀑コレクション

氷瀑(ひょうばく)とは、滝が凍ったもののこと。滝から落ちる水が結氷して創られる幻想的な造形美は、まさに冬の自然が生み出す芸術です。層雲峡峡谷には数多くの滝がかかっており、自然氷瀑を楽しむことができる絶好のスポットでもあります。今回は国道 39 号線沿いやその周辺で見られる主な氷瀑を 6 つご紹介いたします。



〔弧弦の滝〕

旧道の大函トンネル対岸に見える滝。大函峡谷内にあります。(落差約 15m)



〔早乙女の滝〕

大函峡谷内にある滝。弧弦の滝より更に上流に進むと見られます。(落差約 10m)



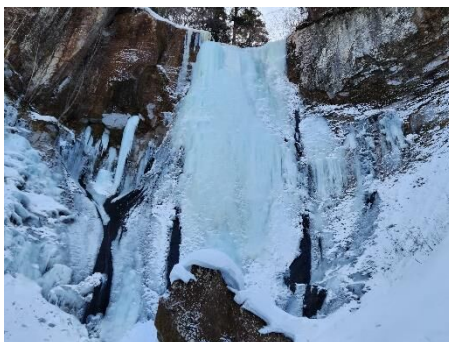
〔銀河の滝〕

例年 12 月頃になると結氷し、落差 120m のダイナミックな氷瀑が駐車場から見るができます。



〔紅葉滝〕

層雲峡温泉の源泉地である紅葉谷散策路の終点にある滝。柱状節理に囲まれ、荘厳な雰囲気です。(落差約 10m)



〔七賢峰の滝〕

夏は樹々の茂みに隠れて見えませんが、冬期間は青く結氷した姿を、国道 39 号線の四の岩覆道から石狩川を挟んで対岸に見ることができます。(落差約 45m)



〔ニセイノシキオマップの滝〕

ニセイノシキオマップ川の左岸支流にかかる氷瀑。別名「ブルーウルフ」幅が広めで迫力があります。(落差約 45m)

〔観察の際の注意点〕 近くで観察する際は、安全のためヘルメット等の装着をしっかりと行いましょう。

※装備をお持ちでない方は当センターの観察会やスノーシューガイドツアーなどへの参加をおすすめします。

なぜ、ナナカマドの実は落ちないの？

真っ白な雪景色に映えるナナカマドの赤い実。白と赤のコントラストがとても美しいです。このナナカマドの実、鳥にとっては冬の食料としてありがたいものですが、どうして寒い冬になっても腐らずに赤いまま枝に残っているのでしょうか。

それは、ナナカマドの実には保存料であるソルビン酸が含まれているため。ソルビン酸には殺菌や雑菌を取り除く作用があるため、長い間腐らないでいられるそうです。この他にも、シアン化合物、アミグダリンという有毒成分が含まれているのですが、ナナカマドの実は完全に熟すまで、凍る、解凍するのを繰り返すことで徐々に毒性と苦味成分が抜けて食べられるようになります。鳥たちはちょうど毒が抜けた頃に実を食べに来るんですね。鳥が食べることで種を遠くへ運んでもらうナナカマドと、冬の大事な食料にしたい鳥の良い共生関係です。



(センター前のナナカマド)



(実を食べに来たツグミ)

2023.1.23